プロジェクトゼミ・ソリューションラボの概要

（2019年9月）

**プロジェクトゼミ・ソリューションラボの概要**

|  |  |
| --- | --- |
| 担当教員 | 向山　恭一 |
| プロジェクトゼミ（3年次）の学修内容 | 多文化共生をテーマとした課題研究を行う。対象は人種・エスニシティにとどまらず、ジェンダーやセクシュアリティ、宗教や言語、さらには階級にいたるまでの、さまざまな差別現象（ヘイトスピーチ、セクシュアル・ハラスメント、同性愛嫌悪、歴史修正主義、文化帝国主義など）をとりあげ、社会に分断をもたらすものはなにか、ひとびとの分断を対話へと変えるにはなにが必要なのかをグローバルな観点から考察する。 |
| キーワード：マイノリティ／マジョリティ、定住者／移住者、社会的包摂／社会的排除、シティズンシップ、アイデンティティ、グローバリゼーションほか。 |
| プロジェクトゼミ（３年次）の活動内容と運営方針 | 前期では広い意味での多文化共生にかかわる基本文献（英語文献を含む）を講読し、プロジェクトゼミ全体での共通了解的な知識の習得をめざす。後期では各自の問題関心に応じた多文化共生の課題を設定し、それぞれの課題についての研究成果をたがいに報告する。また、国内外での社会認識を深めるために、地域・国際交流にかかわる事業への積極的な参加も望まれる。 |
| ソリューションラボ（４年次）の概要 | プロジェクトゼミでの研究成果をさらに発展させ、課題解決まで視野に入れた論文（2万字程度）を作成する。 |
| 配属の要件・基準 | 上記の内容に関心のあること。 |
| 備考 | ゼミについての質問等は、昼休みの時間帯に教育学部D棟8階の政治学研究室で受け付ける。不在の場合は日を替えるか、メールで問い合わせること。 |

**プロジェクトゼミ・ソリューションラボの概要**

**プロジェクトゼミ・ソリューションラボの概要**

|  |  |
| --- | --- |
| 担当教員 | 半藤　逸樹 |
| プロジェクトゼミ（3年次）の学修内容 | 当MATRIX（Mathematical Arts and Transdisciplinary Research Initiative for Creative Studies）ゼミでは，担当教員が従事している研究プロジェクトやその他新規プロジェクトと学生の興味をマッチングさせて学修を進めます．SNS系アプリを用いた環境政策や価値観（宗教観・環境観など）の評価，仮想通貨を用いた社会実験，「（経済活動を含む）人間と自然の共生」や「生命・環境の共進化」に関するシミュレーションや論考，観葉植物・レイアウト水槽によるグリーンアメニティやグリーンAI（AIで環境問題解決に貢献）の研究，地球規模巨大災害リスク（地震・津波，化学汚染，気候変動，AIなど）の解析とリスク・コミュニケーション，未来社会のデザインなど，「猫🐈」，「魚🐟」，「環境」，「地球」，「宇宙」，「経済」，「数理」，「人権」，「人類」，「未来」，「（オンライン）ゲーム」，「乃木坂」のようなキーワードが含まれるテーマを設定する限り，担当教員が全力でサポートします． |
| プロジェクトゼミ（３年次）の活動内容と運営方針 | 学修テーマに取り組むのは学生自身です．担当教員が従事しているプロジェクトに関するテーマで活動をする場合は謝金を払います（学びながら稼げる仕組みの一つ）．学生の能力やエフォートに応じて，ゼミ室に専用の机を与え，研究に関する調査費用などを支援します．起業志向の学生は，起業の準備としてプロジェクトゼミを活用すれば良いでしょう（クラウドファンディングも試行してください）．学外セミナーへの参加費（旅費を含む）の支援も行い，プロジェクトゼミを通じて，卒業後の進路の選択肢を広げつつ，「就活しなくても社会人になれる」や「研究環境の整った大学院へ進学できる」状況をつくるようにします．「課題解決（好きなこと）で生きてゆく」を実践しましょう．プロジェクトゼミで十分な成果を挙げ，それを材料に進路を決めてソリューションラボで（大学を離れて6カ月程度の）旅に出るのが理想的です．MATRIXゼミには他学部の学生も参加する可能性があります（他学部とのコラボレーションを推進します）． |
| ソリューションラボ（４年次）の概要 | プロジェクトゼミで設定した課題について，学生が研究を進めます．研究論文を書く以外にも，学外でのプレゼンの機会もあります．課題解決に向けては，多種多様なステークホルダーとの協働が重要です．ネットワーキングを積極的に行い，「知の共創」から解決策を見出し，大学の教育研究資源を完全に使いこなして説得力のあるプレゼンや論文執筆ができる状態にしましょう．研究を進める過程で必要になるワークショップやイベントの企画立案も学生が行うことになります． |
| 配属の要件・基準 | 領域学修科目パッケージやDS/P.A.C.E.の選択や成績は不問です．学生・教員からの評価を気にせず，個人の興味・関心を徹底的に探究することが重要です． |
| 備考 | 「ちょっと何言ってるかわからない（サンド富澤）」と思ったら，気軽に面談に来てください．複数の教員と面談を繰り返すことが，「脱自分探し」につながることもあります．語学目的以外の海外留学は積極的に支援します． |

**プロジェクトゼミ・ソリューションラボの概要**

|  |  |
| --- | --- |
| 担当教員 | 田中　一裕 |
| プロジェクトゼミ（3年次）の学修内容 | 【テーマ】学びの探究  私たちが学びに出会う場面は学校だけに限らず，家庭・地域社会・働く場など多面的に捉えることできる．現在の技術革新とそれにともなう社会の急激な変化は，学びの活動そのものに大きな影響を与えている．研究主体は自分自身を含む特定の年齢であっても，不特定な人を対象としてもよい．また学ぶ場として，学校・家庭・地域社会・働く場など幅広く設定することが可能である．現在の課題を取りあげることも，新しい学びの在り方をテーマとすることも可能である．  学びを取り巻く教育産業（塾・予備校・教育関連企業），社会教育（研修センター・カルチャーセンター），教育行政（教育委員会），教育研究所，NPOなどをフィールドとする．  【手法】フィールドワーク，データ分析，文献調査  自己の学びに対する興味や関心がある分野に対して分析をおこない，関連する多様なフィールドにおいて多くの人と関わりあい，課題の発見や現状の分析，課題解決へのプロセスから解決策の提案をおこなう． |
| キーワード：学び，大学生自身のキャリア形成，教育関連（学校，教育行政，教育産業，教育法関連），意思決定理論，VR・AR教育，情報・金融・主権者・環境・異文化理解・生命倫理教育 |
| プロジェクトゼミ（３年次）の活動内容と運営方針 | 【活動内容】グループ課題探究と個人課題探究   1. グループ課題として，特定のフィールドにおける課題について取り組む．   (2019年度：阿賀町子ども未来フォーラム，新潟県立正徳館高校キャリア教育，国立妙高青少年自然の家プロジェクトアドベンチャープログラムなど)   1. 個人課題として，個人が設定した課題に対して取り組む．   (2019年度：特別支援教育関連テーマ，日本・韓国関連テーマ，日本・ベトナム関連テーマ，電子マネー関連テーマ，アイドル・コミュニティ関連テーマ）  【運営方針】プロジェクトゼミⅠ，Ⅱ   1. プロジェクトゼミⅠでは，グループ課題を中心として，課題の発見，フィールドの決定，フィールドでの調査，分析などをグループでおこなう．   プロジェクトゼミⅡでは，個人課題について毎回，課題分析に対する進捗状況の報告，検討をおこない，最終的には成果報告書をまとめる． |
| ソリューションラボ（４年次）の概要 | 【概要】個人課題の探究と完成  プロジェクトゼミにおいて積み上げた文献やデータ，分析や課題などをもとに，論理的な整理と理論的な体系化をおこなう．また課題解決に向けた具体的な対策を，各フィールドの職員などの評価を受け，ブラッシュアップをおこなう．最終的には成果を卒業論文の形にまとめる，または公開フォーラムなどの実施で研究成果を発表する． |
| 配属の要件・基準 | 学びに関する興味・関心を強く持つ人．  多様な教育関連のフィールドでの活動を目指す人． |
| 備考 | 面談を希望する学生は　[kazuhiro@create.niigata-u.ac.jp](mailto:kazuhiro@create.niigata-u.ac.jp)　にメールをください．  　日時の調整をおこないます．場所は人社棟2階F288研究室でおこないます． |

**プロジェクトゼミ・ソリューションラボの概要**

|  |  |
| --- | --- |
| 担当教員 | 並川　努 |
| プロジェクトゼミ（3年次）の学修内容 | 学術論文の講読を通して，さまざまなテーマについて知識を得るとともに，研究の方法論や考え方について理解を深める。自分の興味関心だけではなく，ゼミの他のメンバーのテーマや，考え方についても関心を持ち，理解することを目指す。  また，実際に各自で研究を行い，論文作成までのプロセスを一通り経験する。 |
| キーワード：調査，面接，観察，フィールドワーク |
| プロジェクトゼミ（３年次）の活動内容と運営方針 | 【プロジェクトゼミⅠ】学術論文の講読（＋調査実習）  ・各自の興味・関心・専門領域に合わせて文献を選び，講読する。  ・授業では，担当者が内容を簡潔にまとめたものを発表した後，それについて 全体で議論を行う。  ・各自が領域学修の成果も活かして，積極的に発言することが求められる。  ・2020年度は，講読と平行して，質問紙を用いた調査研究の実習も行う。  【プロジェクトゼミⅡ】各自の研究についての発表・議論  ・授業では，毎回２~３名が成果や進捗状況を報告し，全体で議論を行う。  ・最終的に一人ひとりが何らかの研究を行い，プレ卒論のような形でその成果を論文の形にまとめる。 |
| ソリューションラボ（４年次）の概要 | 自身で設定したテーマに関する実証的な研究を進め，卒業論文を作成する。  ・プロジェクトゼミで行った研究を発展させる形が基本だが，テーマ変更も可。  ・授業では，プロジェクトゼミⅡと同様に毎回発表・議論を行う。  特に，自分とは異なる領域を学んでいる人にも理解可能なように研究の内容や意義を説明し，互いに活発な議論を行うことが求められる。 |
| 配属の要件・基準 | ・配属に特別な要件はない。  ただし，希望者が定員を超過した場合は，成績（GPA，取得単位数，履修科目），面談内容，希望理由などをもとに，選抜を行うことがある。 |
| 備考 | ・狭義の心理学的な研究に限らず，人を対象に実証的なアプローチで行われる研究であれば，各自が選ぶ研究テーマに制約は設けない。（実際今年度のゼミでは，音楽，メディア，SNS，宗教，観光，幸福感，いじめ，犯罪，VR，環境，林業など多様なキーワードが挙げられている。）  ・面談を希望する場合は，事前にメールでアポイントをとること。  第3タームは，月～水曜の昼休み（12:00～12:45），木曜4限などが， 都合がつきやすいが，その他の時間帯も応相談。  メールアドレス：namikawa@ge.niigata-u.ac.jp  研究室：総合教育研究棟F棟5階　F577（エレベーターの正面） |